

2021年度に発行予定の

IFCA ユースリーダー育成マニュアルの草稿

(第1稿：マニュアルの概要) 全10ページ



タイトル

児童福祉施設や里親家庭を経験した若者たちのための リーダーシップ・マニュアル

この本の目的

1. 当事者ユースに特化したリーダー育成カリキュラムとツールを、多くの人たちが活用できるようにする
2. 当事者の声の大切さについて、ユースの日々の生活や自立支援にかかわるすべての人たちが理解する
3. 移行期のユースたちにスキルと力を与え、かれらの安定した有意義な自立を実現する
4. このマニュアルをつうじて、多くの当事者ユースたちと、かれらを支える人たちが連携する
5. ユースひとりひとりの生活向上と社会改革につながる活動を促進する

対象 読者はだれか？

当事者ユース・実親/きょうだい/親族・里親・施設のスタッフ・ケースワーカー・自立支援にかかわる人たち・支援者としての大人・政策にかかわる人たち・地域リーダー・当事者団体のリーダーおよびOB/OG

体裁・デザイン

- ❖サイズ (A4) およそ200ページ 図版や写真、グラフ入り
- ❖団体のブランディングを考慮した色使いやレイアウト

書籍の内容（仮の目次）

第1章 当事者リーダーとは何かについて考える

- ❖ リーダーシップとは 広義のリーダーシップと当事者活動におけるリーダーシップ
- ❖ なぜ今、社会的養護の当事者のリーダーシップが求められているのか？

第2章 当事者リーダーを育てるIFCA のユース活動とは

■ まず、IFCA のユース活動の6つの特徴を見てみると、この本ができた経緯がわかります

1. ユース・ボイスが主体となった活動であること
2. ユースの内面の成長を重視した「ユース・デベロップメント」の論理を土台にしたプログラムであること
3. 海外の当事者ユースたちとの連携・協働があること
4. 独自のリーダー育成ツールを創り実践していること
5. 国内で地域チームを結成し、ネットワークを築いていること
6. 大人のサポーターとともにプログラムを行なっていること

リーダーシップを形成するためのプログラムを運営するために、IFCAがつくった仕組み

- ◆IFCA のユースプログラムは2年間かけて完結する（タイムラインの図）
- ◆IFCA のプログラムは2重構造のリーダー育成になっている（一覧表）
- ◆どんなユースになってほしいか、を考え、ユースたちの成長を測定する（ユースの評価に使うスケール）

第3章 さまざまなアクティビティを取り入れた リーダー育成プログラム PEACE Program

- まず、このプログラムの土台にある「ユース・デベロップメント」という理念について説明します
- 「ユース・アダルト・パートナーシップ (YA-P)」という重要な考え方についても解説します

◎ PEACE リーダーシップ Program

1. **Powerful Stories** 自分の社会的養護のストーリーを伝える
2. **Educate Yourself on Youth Rights and Child Welfare Systems** 自分の権利について、また、児童福祉のシステムについて知る
3. **Advocate for Your Peer Foster Youth** 次世代や同士のためにアドボカシー活動をする
4. **Connect with Others** 信頼できる仲間や大人との関係と繋がりづくり、ネットワークづくり
5. **Elevate Your Independent Living Goals** ゴールをさだめる。セルフケア・ニーズを人に伝える（アサーティブネス）進路や目的、アイデンティティの発見

第4章 IFCA のユースリーダーたちの声と活動の歩み

- *IFCA ユースたちの声
- *IFCA ユース活動のあゆみ

付録

- ❖ リーダーシップ育成プログラムの資料
- ❖ 事業パートナーと協力団体（リーダーシップ・プログラムの作成に協力している団体など）
- ❖ フォスターケア用語集
- ❖ あなたもIFCA リーダー育成プログラムのトレーナーになりませんか？

ここからは、各章ごとのアウトライン。

「第1章 当事者リーダーとは何かについて考える」では、さまざまなアクティビティや話し合いを通じて、自分がどのようなリーダーなのか、リーダーとはいったい何を意味するのかを考える。

「第2章 当事者リーダーを育てるIFCA ユースの活動について」では、団体がどのような理念や考えに基づいてリーダーシップ・プログラムを構築したのかを、読者が十分に理解できるようにする。

以下は、IFCA ユースプログラムの6つの特徴を解説した表。マニュアルの中では、この部分をユースたちが、かれらのプログラムの経験について、他のユースたちに伝えるような語り口を取り入れる。

1	ユース・ボイスが主体となった活動であること	<p>ユースボイスとは、「当事者の声」を意味します。IFCAでは、実際に社会的養護のもとで過ごした経験のあるユースを「社会的養護の専門家（エキスパート）」で、ユースボイスは、より良い社会的養護を実現していく上で、非常に大切なものであると考えています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ユース・ボイスを主体としたIFCA ユースたちの活動について ● ストラテジック・シェアリングについて
2	ユースの内面の成長を重視した「ユース・デベロップメント」の論理を土台にしたプログラムであること	<p>IFCAでは、月例ミーティングや年2回の合宿、米国での視察研修、日本での米国チームとの協働、リーダーシップ・プログラムを通して、ユースにとって新しい発見になるようなプログラムが用意されています。このような活動を通じて、ユース自身が成長してゆくことがとても重要だと考えているからです。英語ではこのユースの内面の成長のことを「ユース・デベロップメント」という言い方で表現します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ユースが内面的な成長を遂げると、そこに何が起こるのか
3	独自のリーダー育成ツールを創り実践していること	<p>IFCAでは、ユースボイスの発信の仕方などのスキルの体得を「ユース・リーダーシップの育成」の一環として行っています。私たちは「ユースボイスを重要だ」と感じている当事者団体として、若者たちが立派なリーダーになるためのプログラムを創り、実践しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● IFCA ユースたちが使っているリーダーシップ・ツールやその実践について
4	海外の当事者ユースたちとの連携・協働があること	<p>IFCAでは団体設立当初より、日本とアメリカのユースと一緒に活動してきました。その理由のひとつは、日本とアメリカ両国の児童福祉の状況を、ユースの実際の経験やユースの考えのもとに比較することで、改めて自分の国の状況を知ることです。この比較から得る学びや経験は、自分自身や他の当事者が置かれている・いた状況を改善し、ユースがより自分らしく、過ごしやすく生活できるように声を上げていくためのジャンピング・ボードになります。国や文化や制度による違いはもちろんありますが、当事者として抱えてきた思いは共通することがたくさんあります！</p> <ul style="list-style-type: none"> ● IFCAユースたちが今まで、海外のユースや事業パートナーとどのような活動をしてきたか、そして今、何をしているのか？
5	国内で地域チームを結成し、ネットワークを築いていること	<p>全国に複数のユース・チームがあり、それらのチームがネットワークをつくって協働していることも、IFCAユース・プロジェクトの大きな特徴です。現在、東京・静岡・関西・福岡にユース・チームが結成されています。全国にチームがあるので、自分が育った土地以外のユースの話を知ることができます。そして何より、全国にユースの仲間が広がり、IFCAを通して全国に友達を作ることができます。社会的養護のもとで育ったという共通点をもつ仲間が、地域を超えてつながることができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●IFCA ユースたちがそれぞれの暮らす地域でどんな活動をしているのか ●地域でメンバーがほかの社会的養護の当事者に手を差し伸べて、仲間の輪を広げることについて ●地域の社会的養護の当事者のニーズについて発言する力をつける
6	大人のサポーターとともにプログラムを行なっていること	<p>IFCAの地域チームに、サポーター・アダルト（SA）と呼ばれる、ユースの伴走者のような大人がいます。IFCAのSAは、元当事者ユース、弁護士、研究者、臨床心理士、社会福祉士など、さまざまな経歴と職業を持った人たちの集まりですが、かれらのすべてが「SAの特徴」を生かして、私たちと接しています。その特徴は、いくつかありますが、その一つは、ユースの良きお手本になり、励ましやアドバイスを与えることです。また、SAは、ユースがいろいろなことを気兼ねなく話せる、信頼の置ける人物です。IFCAは、このユース・アダルト・パートナーシップ（YA-P）という協働の仕方を基に活動を進めてきました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ユース・アダルト・パートナーシップ（YA-P）という考え方について

引き続き第2章：ここでは、「IFCA 日米ユース・リーダーシップ・プログラムの流れ」について説明することにより、リーダーシップ形成のプログラムには2年から3年の時間が必要であることが理解できるようにする。同時に、1年目から3年目の活用内容について解説する。以下の表はその内容を取りまとめたもの。マニュアルの中では、発達心理学とグループ形成の観点から、このプログラムの時間的な構造を説明する。

	活動内容（国内）	活動内容（海外）	理由・現況
入団時から1 2ヶ月	<p>ユース・エバリュエーションの11項目のうち、最初の5つの項目を習得する。</p> <p>ストラテジック・シェアリング (SS) を習い登壇活動を始める。</p> <p>ブログ投稿をする。</p> <p>リーダーシップ・カリキュラムを受講する。</p>	<p>助成金による1回目の渡米活動。</p>	<p>1年目に渡米プロジェクトを経験することにより、目標意識が高まり、米国チームとのつながりが深くなる。</p> <p>プロジェクトが助成金の上に成り立っているため、渡米する数名のユースたちのうちの大半が、入団から1年目のメンバーでなければならないとすると、毎年、数名の新メンバーを加える必要がある。</p>
入団2年目 (12から2 4ヶ月)	<p>ユース・エバリュエーションの11項目のすべてを達成するのが目標。新しいユースたちの模範・メンターになる順備をする。</p> <p>登壇活動以外にプロジェクトの手伝いも始める。ブログを最低でも2つ提出。</p>	<p>助成金事業としての2年度目の渡米は、チームリーダーに就任した場合のみ行うことができる。(チームリーダーとして活動できるのは2年までとする。)</p>	<p>過去の経験からは、2年目に入ると、活動に積極的に参加できない状態になるメンバーがいることがわかっている。</p> <p>なるべく多くのユースがリーダーになる機会を持てるようにする。リーダーの選出・交代・引き継ぎについては、これから詳細を考えてゆく。</p>
入団3年目以降	<p>SAとして団体に再参加するか、団体を卒業。ユースとして活動を継続する場合は、各プロジェクトのリードなどをして具体的な業績を残す。</p> <p>IFCAメンバーとしての登壇活動を続けるが、新しいユースにSSを教えたり、登壇準備を支える役目もしてゆく。</p> <p>プロジェクト・チームに参加する。</p>	<p>助成金による渡米活動はなくなる。渡米する機会は以下の2つの場合：</p> <p>1) トモダチアラミナイとして、個人を米国での会議などに招待する。</p> <p>2) 米国の機関がユース個人を招待する。</p> <p>前例からも、米国以外の外国に行き活動することは、十分可能性がある。</p>	<p>IFCA ユース・リーダーシップ・プログラムの基本構造に沿って、リーダーとしての基本トレーニングは2年を目安に完了できるようにする。3年目以降も団体に残るメンバーが、経験を生かして、SSやブログ編集などの重要なプロジェクトを率先して行い、核となる活動をリードしてゆく。</p> <p>このプロジェクトごとの活動を、2年間のリーダーシップ・プログラムを終了したメンバーには、有償活動（時間給もしくは契約制）にする。</p>

引き続き第2章：ここでは、「IFCAのリーダーシッププログラムの二重構造」について説明することにより、読者が「当事者ユースに特化したリーダーシップ形成プログラム」について知ることができるようにする。マニュアルの中では、IFCA ユースたちの経験談や、ユース会議やイベントの中で実際に行なっていることも合わせて紹介する。



IFCAの『リーダーシップ・プログラム』とは具体的にどのようなものか。

IFCA 日米ユースメンバーと理事たちとの協議のなかで明確になったことのひとつは「フォスターケアに特化したリーダーシップ・プログラムは大きくわけてふたつある」ということでした。

1. ひとつは、CYC（カリフォルニア・ユース・コネクション）という当事者団体が25年かけて作りあげた伝統的なリーダーシップモデル。14才から24才までのシステムに身を置くユースとケアをはなれた当事者たちが、フォスターケア制度や政策を改善するためのアドボカシー運動に使うスキル構築プログラムです。 <http://www.fosteryouthaction.org/about/>
2. もうひとつは、上記のリーダーシップ・プログラムを実施するにあたり、必要なソフトスキルを延ばすプログラム。虐待やネグレクトを受けて育ったフォスターユースのためにつくられたカリキュラムが数多くある中から、日本の児童福祉の状況や、日本の文化にも合う、柔軟性のあるものを日米ユースで選んでいます。

下記の表には、現在、進めている2つのカリキュラムを記載します。

	1) CYC リーダーシップモデル	2) ソフトスキル・ビルディング
理念	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 当事者のことは、当事者自身が最も良く知っている。（ユースはユースの問題に関するエキスパート） ➢ ユースに“声（ヴォイス）”を持たせることは、ユース自身のエンパワーメント、そして、フォスターケアシステムの改善につながる アドボカシー運動の基本となる。 ➢ ピア・メンタリング 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ すべてのユースがリーダーになれる素質を、内に秘めている。 ➢ ユースリーダーになるためのスキルは、実社会で役に立つスキルである ➢ 自己表現はエンパワーメントに繋がる ➢ 誰にでも、フォスターケアのストーリーがあり、それを語る権利と力がある。 ➢ ピア・メンタリング
プログラムの内容 (習得するスキル)	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 当事者の権利擁護と生活向上に関する州法、連邦法改善のための、議員たちとのアドボカシー運動のノウハウ ▪ フォスターケアの問題についてのプレゼンテーションのしかた（一般市民対象、ポリシーメーカー対象） ▪ 政策はどうやって創られるのか（基礎知識の習得） ▪ グループリーダーとしてのミッションや目標のつくりかた ▪ 効果的な会議やイベントの進行の仕方 	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 人との適切な接し方。話し方。スピーチのしかた。文章で意志をつたえる力。時間内に仕事をかたづける、など、基本的なスキル <p>現在 IFCA が提供中のふたつのカリキュラム</p> <ul style="list-style-type: none"> ❖ <u>ストラテジック・シェアリング</u> 自己のフォスターケアの中での生い立ちを、効果的に人に伝えるためのレッスン。 http://www.casey.org/Resources/Publications/pdf/StrategicSharing.pdf ❖ <u>パーマナンスィー・パクト（同盟）</u> 18才でケアを離れて自立する時、ユースが、信頼できる大人と“契約”を結ぶ。この大人が、ユースの孤立を防ぐため、支援者としてすべき事項をあらかじめまとめておく。 http://www.fosterclub.com/transition/article/permanency-pact
IFCAの日米ユースプロジェクトの役目	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 年に1度の日本ユースの米国でのユースアドボカシー視察旅行を実施。 ▪ シンポジウム、ワークショップなどの継続した日米ユースプログラムの提供。 	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 年に1度の米国ユースの来日と、日本でのユースとの協働を実現させる。 ▪ シンポジウム、ワークショップなどの継続した日米ユースプログラムの提供。
プログラムの習得に必要な期間と、人材などのリソース	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1年から4年 ○ ソフトスキル・ビルディングと同時に行うと、効果が上がる。 ○ 他のユースの指導にあたるソフトスキルと意欲、そして強い意志の持ち主。 ○ サポートティブアダルトの支援が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1年から2年 ○ CYC リーダーシップモデルと同時に行うことが可能。 ○ 14才から24才までのユースであれば、誰でも身につけられる。 ○ サポートティブアダルトの支援が必要。
期待される結果	<p>コアになるユースリーダー1期生が日本国内で、大人の助けをかりて、次世代のリーダーをつくるのが可能になる。ひとつのリーダーシップデベロップメントの方法ができあがる可能性がある。</p>	<p>明確なプログラムは、施設出身者や里親家庭などの環境の違いを超えて、幅広い年齢、地域のユースのあいだで広めることができる。</p> <p>1) のリーダーシップモデルに進まない児童も、自立に重要なスキルを蓄えることができる。</p>

引き続き第2章：ここでは、「IFCAの個人評価のためにつくられた、エバリュエーションの内容」を公開することにより、当事者ユースたちの活動が、「個人の成長」の視点から、何を目指しているかが具体的な「ゴール」としてわかるようにする。

- 1) ミーティングに定期的に参加する。
- 2) チームメイトやスタッフ、サポーター、また、団体外部の活動パートナーたちを尊重したコミュニケーションがとれる。(仲間のプライバシーも守ることができる。)
- 3) 異文化や言語に対する興味関心を抱き、日本とアメリカのフォスターケアの状況について、より多くのことを学ぶ意欲を示す。
- 4) IFCAユースプロジェクトのプログラムの中のひとつ以上の活動に取り組み、その活動を維持することができる。(ユースブログ・ユースアドボカシー・ストラテジックシェアリング・パーマネンシーパクト・データ収集と研究、など)
- 5) ミーティングの進行やイベントの準備など、チームのためのタスクができる
- 6) 自己のゴールを打ち立て、目標に向かって自分のペースで進むことができる。(自分のリーダーシップのスタイルについて考えるスキルを身につけている。)
- 7) ユースボイスを使って、多くの人の前で自己のフォスターケアのストーリーを語るすることができる。(“ストラテジック・シェアリング”の基本的な知識を身につけている。)
- 8) 日本とアメリカの児童福祉や子ども/若者を取り巻く社会状況について積極的に学び、自己の学び取ったことを語りや文章で人に伝えることができる。
- 9) チームメイトと共に、自分たちの活動のゴールを打ち立て、定期的に成果について考察し、今後の目標をたてることができる。
- 10) ピアメンターとして、年少のメンバー、自分よりも経験の浅い新しいメンバーなどを助け、指導することができる。
- 11) 理事やサポーター、米国のユースプログラムディレクターと連絡をとりながら、広報などのタスクを積極的にやり、他のユースの模範(ロールモデル)となることができる。

引き続き第2章：ここでは第3章のPIECEリーダー育成プログラムを開始する前に、すべての人たちが知る必要のある、「ユース・デベロップメント」という概念についてビジュアルな資料をみながら、学べるようにする。日本の当事者活動は、「若者たちの内面の成長」、また、発達心理学のレンズをとおした「リーダーとしての自覚や自己形成」についてあまり語らない。確固とした理論的な裏付けがあるから、意味のある、効果的なリーダーシップ・プログラムを提供できるのだということを読者が理解できるようにする。

以下は、当事者活動の根底にある理念の説明です

ユース・ボイスを尊重した活動には、

ポジティブ・ユース・デベロップメントという考え方（内面の成長）が土台としてある。その概念を基に、私たちは

ここが重要

ユース・リーダーシップの育成を行う

そうするとここに、ユースのエンパワーメントが起こる

そしてユース・アドボケートが誕生する

社会改革につながる

引き続き第2章：ここでは、IFCAのユース活動が、前述の「ユース・デベロップメント」という概念の他に、もうひとつ、「ユースと大人のパートナーシップ」のもとに成り立っていることを、ビジュアルエイドや、事例を使いながら、解説する。

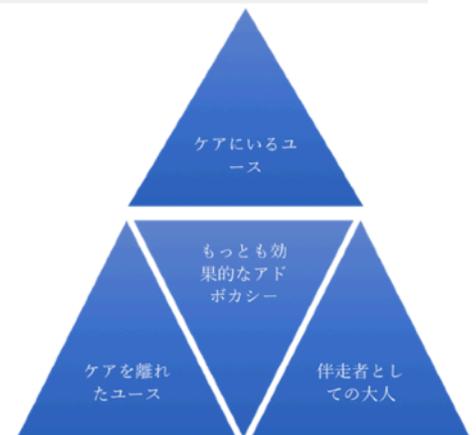
ユースと大人のパートナーシップ Y-AP

研究からわかっていること：

- いろいろなかたちのY-APがあるが、一番よいタイプは、柔軟性と多様性のあるY-APがのぞましい。
- Developmental Relationship (お互いが成長できるモデル)
- ユースと大人が力をシェアすることにより、ユースのエンパワーメントへの可能性を広げ、地域へのメリットを向上する。
- ユースの社会参画は、大人の世界にだけ起きていると考えられがちな人材育成、地域の発展、政策や新しいプログラムの開発に貢献している。

もっとも効果的なアドボカシーに必要な3者 社会的養護における、YA-Pの三角形

1. まだ、社会的養護の下で生活しているユース
2. ケアを離れて自立したユース
3. 伴走者としての大人



大人の存在と役割 Supportive Adults (SA)

サポーターティブ・アダルトとは誰なのか？

三つのタイプが挙げられます。

- 年上のきょうだいなど、身内の人間。
- ユースがすでに身近でつきあっている人たち。例えば、学校の先生やスポーツコーチ、もとケースワーカー、以前メンタルヘルスのサービスを与えていた人、もと雇用者など。
- ユースの人生において、非正式な役割を持っている人。例えば、教会学校の指導的な立場の人や、友人の両親など。

サポーターティブ・アダルトの特徴とは何か？

- ユースにとって安全な人物- ユースがどんなことでも安心して話せる存在だという、信頼感。
- ユースの生活に安定感を運んでくれる人 - 1年間以上持続できる人間関係は、もっとも価値のある人間関係だということもわかっています。
- ユースが必要な時に、そばにいてくれる人、連絡のとれる人 - だからといって、つねにそのユースと会えなければならない、というわけではありません。
- 変わらない継続的な関係を保つことができる人
- ユースが信用できる人
- ユースの意見や行動を尊重している人

第3章◎ PEACE リーダーシップ Program (IFCA が考案し実践しているプログラム)

5つのカリキュラム テーマ	トレーニングと活動の内容	具体的なツールや資料
1) Powerful Stories 自分の社会的養護のストーリーを伝える	安全で効果的なストーリーの共有の仕方を学ぶ 自己のストーリーが社会に与える影響について学ぶ	「ストラテジック・シェアリング」の実践と登壇活動 および、ファシリテーターの養成
2) Educate Yourself on Youth Rights and Child Welfare Systems 自分の権利について、また、児童福祉のシステムについて知る	社会的養護のシステムを知る（日本とアメリカの両方）日本のシステムについて、他の人たちに説明できるようになる。 自分にはどのような権利があるのかを知る。 自分の国や地域のシステムや現状について知らなければ、何をどのように変えて行きたいのか、もわからないから。	IFCA グローバル・フォスターユース・リーダーシップ・プログラム（2019年度に7ヶ月かけてIFCA の日米のユースたちと支援する大人たちが作成したプログラム）
3) Advocate for Your Peer Foster Youth 次世代や同士のためにアドボカシー活動をする	ストラテジック・シェアリングを学び、地域や国の問題点や解決したいことが見えてきたら、アドボカシー（代弁者としての活動）を始める。 自分の生活だけでなく、他のユースたちのためにも、政策や制度、児童福祉の実践の仕方を変えてゆく活動には多くのスキルが必要。	CYC (カリフォルニア・ユース・コネクション) との共同プログラム「月例・コーチングとアドバイス・トレーニング」の実践
4) Connect with Others 信頼できる仲間や大人との関係と繋がりづくり、ネットワークづくり	アドボカシー活動をするにはまず、人と繋がりコミュニケーションをとるスキルが必要。ここではネットワークングの能力をアップし、地域の他のユースたちにアウトリーチする方法。人と出会う時の作法などについて学ぶと同時に、大人との繋がりが、パーマネンシー確立にどのように結びつくかを学ぶ。	ベター・トゥギャザー（米国当事者団体 FosterClubのプログラム）の実践 「パーマネンシー・パクト」の実践とファシリテーターの養成 SAワークブック
5) Elevate Your Independent Living Goals 進路や目的の発見と目標設定。自己のニーズを伝え支援を求める能力	自分の将来設計と、目標を達成するための具体的なツールを使いこなす能力を磨く。 セルフケアについて学ぶ。 自立のための実質的なスキルや知識を身につける。	アサーティブネス・トレーニング コンフリクト・レゾリューション（対立解決教育） インデペンデント・リビング・ツールキットの作成と実践

第4章の「IFCAのユースリーダーたちの声と活動の歩み」をふたつのセクションに分けて解説する。「ユースたちの声」はメンバーが書いた文章や発言内容を使用する。活動の歩みは年代表と写真や図版でページを作成する。

「付録」の内容として上がっている項目は以下のとおりである。

- *リーダーシップ育成プログラムの資料（ひとつひとつのツールを写真入りで紹介）
- *事業パートナーと協力団体（リーダーシップ・プログラムの作成に協力している団体や個人を紹介するだけでなく、イベント会場で行うアクティビティや会議の中で使う「シナリオ」もここに納める）
- *フォスターケア用語集（最新のものを使い、マニュアルの中の用語が理解できるようにする）
- *リーダー育成プログラムのトレーナー養成講座を受講したい人たちへの連絡方法と手順

出版までのタイムライン

- ▶ 2019年4月から10月まで：プログラム実践第1期 「IFCA グローバル・フォスターユース・プログラム」を実際に行い記録を取る。
- ▶ 2020年3月：
- ▶ 2020年6月から2020年3月まで：プログラム実践第2期 CYC と FosterClub との共同のプログラムを実際に行う。
- ▶ 2020年11月までに、編集会議を少なくとも3回開催し、草稿（第二稿）を作成する
- ▶ 2020年の春から、出版社との会議と交渉を始める。
- ▶ 2020年7月までに、すべての章の内容を書き上げる。
- ♣ 1章、2章、4章に関しては、現在までに完成しているあらゆる記事やスピーチ原稿、発表用のパワーポイントや出版物の内容を整理して使用する。

編集スタッフ：

栗津美穂

永野咲

長瀬正子

久保樹里

その他、サポーターティブ・アダルト有志

ユースメンバー有志